

I 子育て準備期中・高校生、まもなく親になる方を対象にしたプログラム

I-1

いのち
生命の誕生について考えよう！

対象：中学生・高校生
時間：50分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊娠後期(40週)の妊婦を体験することで、妊娠時の重量感、圧迫感、動きにくさに気付く。また、体験を通して、妊娠期の身体的大変さが分かり、周囲の人々が助け合うことの大切さについて意見交換し、自分にできることを考える。 		
実施のポイント(評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に妊婦体験に取り組むことができる。 ○ 性別に関わらず、社会の一員として、生命をはぐくむことについて考えることができる。 ○ 妊娠中の体型を胎児の発達の様子と関連付けて理解し、周囲の配慮の必要性に気付くことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4~6人のグループに分かれておく。(同性同士あるいは混合で参加対象により編成する。体験者の装備介助に2名必要) ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ シミュレーショングッズ(ない場合はリュックサック、ビニール袋、水(3~4瓶)、エプロン) ※シミュレーショングッズの貸出については、市町村の関係課等にお問い合わせください。 ○ 資料 ○ マタニティマーク(ステッカーまたは写真) ○ 椅子 ○ 安定した履き物 ※ファシリテーター(またはスタッフ)はできれば複数名が好ましい。(シミュレーション数+1) 		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・マタニティマーク提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・マークの存在する意味について、妊婦体験を通して考えることを説明する。 	資料1 3つの約束 マタニティマーク
展開 20分 ※1人あたり5分程度	ワーク1	◎ワーク1・2では、妊娠時の重量感、圧迫感、動きにくさを体験し、周囲の人々が助け合うことの大切さに気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦体験の方法について説明する。 ※体験セットの内容について、胎児の発達の様子と関連付けながら行う。(資料参考) ※装着の仕方と注意事項について ※動作の内容と順番について ※体験・観察のポイントについて ・シミュレーターは妊娠8か月以上を想定していることを伝える。 ・グループごとに順番で体験をスタートし、観察者は装着介助をするように伝える。 ・急激な過重があるため、行動には十分気をつけるように伝える。(履き物、跳ぶ、体のねじ曲げ、急な動作は避ける。) ・肩・腰・足等負担がかかるためケガや痛みがある人は行わない。体調に不具合があればすぐに中止する。 ・安定した履き物で行う。 	ワークシート 資料3の① シミュレーショングッズ ※シミュレーショングッズがない場合は資料3の② 椅子 安定した履き物等
	ワーク2	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過とともに感じたこと(観察者は体験者の変化)をグループで話し、各自記入する。 ・体験セットを片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験が終了したら、動作をして感じたこと、観察したことをワーク1、2に各々の立場で記入するよう伝える。
まとめ 10分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な考えがあってもよいことを伝える。 ・一人ひとりが社会の一員として、生命をはぐくんでいること、自分にできることを考え、皆に伝える。 	ワークシート

I-2

子どもをもつということ

対象：子育て準備期の世代

時間：50分程度

ねらい	○ 「子どもをもつ」ことについて、「子どもをもつことの意味」や「子どもを社会で支えることの意味」を、話し合いをとおして深めていく。			
実施のポイント (評価など)	○ グループでの意見を共有するとともに、特に参加者各自の考えを深めることができる。 (ワークでは自分の言葉で記入する時間をしっかりと設けるようにする。) ○ 「子どもをもつことの意味」や「子どもを社会全体で支える」ということについて、ワークを通じて考えを深めることができる。			
事前準備	○ あらかじめ4人程度のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 資料 ○ 名札 ○ 付せん紙 ○ 油性マーカー ○ A3の紙			
時 間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物	
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた考えを出しやすい雰囲気をつくる。 自己紹介により互いに親近感をもてるようにする。 	名札 3つの約束
展開	10分	ワーク1	◎「子ども」と聞いて、連想する言葉を出していくことで、「子ども」に対して、様々な捉え方や考え方があるということについて、気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 最初は、一人で付せん紙に書き出す。 次に、グループで一人ずつ発表する。 最後にグループ内でA3の紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 プラスのイメージとマイナスのイメージのどちらも認めることができるようにする。 	付せん紙 A3の紙 油性マーカー
	20分	ワーク2	◎「子どもと一緒にいると幸せ!」「自分の子どもではないのだけど…」「いつか子どもをもちたいな」のエピソードを読み、エピソードから感じたことを考えたり、子どもをもつことの意味や子どもを社会全体で支えるということについて思いを巡らしたりすることで、子どもをもつことの意味について多面的・多角的に考えることをねらいとする。また、「子どもをもつということ」が、社会的には当たり前にも思われている傾向があること、「子どもをもつということ」は当たり前でないことなど様々な視点から考えることができるようにする。 (資料は、参加者に合わせて選択してもよい) <ul style="list-style-type: none"> エピソードを読み、感じたことをワークシートに記入する。 グループ内で発表し、共有する。 	ワークシート 必要に応じて提示 ●資料1の① ●資料1の②
まとめ	10分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> 様々な考えがあってよいことを伝える。 何人かに発表してもらい、全体で共有する。 	ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 感想を記入する。 数名発表し、全体で共有する。 		

ワーク・ライフ・バランスって？

対象：中・高校生及びこれから親になる世代
時間：70分程度

ねらい	○ ワークを通じて、ワーク・ライフ・バランスについて考えることで、働き方の見直し、固定的性別役割分担意識の解消や、家族やパートナーとの協力の在り方について考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 働きながら子育てができる環境を整備していくためには、働き方の見直しが必要という考えを深めることができる。 ○ 誰もが働きながら子育てができる環境づくりを進めることの重要性に気付くことができる。 ○ 固定的性別役割分担意識が残っていないか確認することができる。		
事前準備	○ あらかじめ4~6人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 資料 ○ 付せん紙 ○ 模造紙		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介でプライベートの好きな時間を紹介することにより互いに親近感がもてるようにする。 	3つの約束
展開	10分 ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> エピソードを読む。 役割分担について自分の考えをグループ内で発表し、共有する。 	◎自分が役割分担についてどのような意識をもっているか気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 質問項目の役割分担について自分の考えを「回答」に書き込む。 自分の考えをグループ内で発表し、共有する。 	ワークシート(役割分担表)
	10分 ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ワーク1の「回答」と資料を見てグループで話し合う。 	◎固定的性別役割分担意識に気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> グループ内で進行役と書記役を決める。 進行役を中心に自由に話し合う。 出てきた意見を書記が記入する。 	資料1-① 資料1-② ワークシート
	25分 ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> 仕事と家庭のバランスがとれる方法をグループで話し合う。 グループの意見を発表し、全体で共有する。 	◎働き方の見直し、両立支援の重要性に気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 個人で付せん紙に書き出す。 グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 様々な方法を知る。 	資料2 付せん紙 模造紙
まとめ 15分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ワーク1の「ふりかえり後の回答」を書く。 ふりかえりを書きグループ内で感想を発表する。 数名発表し、全体で共有する。 	◎ワーク2・3を振り返り、もう一度ワーク1をすることで、自分自身の意識の変化や高まりに気付くことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランス推奨のためには、何が必要なかをまとめる。 	ワークシート(役割分担表) 資料3(必要に応じて配付)

Ⅱ 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅱ-1

赤ちゃんといっしょ

対象：乳児と乳児をもつ保護者
時間：90分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳児の成長の特徴を知り、赤ちゃんとの生活や関わり方のヒントを得る。 ○ 人との関わりや自然との触れ合い、遊びなどの中で成長する大切さを知るとともに、電子メディアの影響について学ぶ。 ○ 親同士がつながり、子育ての仲間を得る。 			
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児の不安解消、学び合い、情報交換、仲間づくりの場に行うことができる。 ○ 人との関わりや自然との触れ合い、遊びなどの大切さと、電子メディアの長時間接触の影響などについて考えることができる。 			
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙 (必要に応じて) ○ BGM (受付中や待ち時間にリラックスできるもの) ○ 名札 ○ 資料 ○ 地域の情報紙 ○ 紹介するおもちゃ ○ マット (赤ちゃんも一緒に輪になれるようなもの) 			
時 間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物	
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・名札づくり ・3つの約束 ・アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前とニックネームを書いてもらう。 ・ファシリテーターが自己紹介をする ・赤ちゃんの誕生日順に並び替える。 ・参加者が自己紹介をする。 (名前、赤ちゃん月齢等) ・赤ちゃんの名前の由来を紹介する。 (2～3人に聞く)。 	名札 3つの約束	
展開	15分	<p style="background-color: #90ee90; display: inline-block; padding: 2px;">ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんがどんな時に泣くかをみんなで出し合う。 ・資料を一緒に読む。 	◎乳児の成長の特徴に気付くことをねらいとする。 ・日常生活の身近な場면을話題に出しながら、話がしやすい雰囲気を進めていく。	ワークシート 資料1
	20分	<p style="background-color: #90ee90; display: inline-block; padding: 2px;">ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常に行っているふれあい遊びを互いに紹介し、みんなで一緒に体験する。 ・時間に余裕があれば、おもちゃについて紹介する 	◎赤ちゃんの心を育てる遊びについて気付くことをねらいとする。 ・ふれあい遊びを楽しみながら、親子の信頼関係がはぐくまれることを伝える。 ・遊びがなじむように、何度も繰り返し体験する。 ・参加者からも、おすすめのおもちゃがあれば紹介してもらい、情報交換を行う。	ワークシート 紹介するおもちゃ
	25分	<p style="background-color: #90ee90; display: inline-block; padding: 2px;">ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭でどのくらい視聴しているかを出し合う。 ・資料を読み、感じたことやこれから何をするかなどを話し合う。 ・地域の子育て支援情報、子育てひろばなどの情報交換を行う。 	◎電子メディアの影響について気付くことをねらいとする。 ・資料から、電子メディアの長時間接触が子どもに与える影響について気付くようにする。 ・どんな時に見てしまうかを話し合い、各家庭の状況を把握し、親の気持ちに寄り添いながら話を進めていく。 ・家の中で過ごす時間が長くなると、つい電子メディアに頼ってしまうので、どんな過ごし方があるかアイデアを出し合う。また、子育て支援施設などの活用を提案し、参加者同士で具体的な施設を紹介し合うよう促す。	ワークシート 資料2 地域の情報紙
まとめ 10分	<p style="background-color: #66b3ff; display: inline-block; padding: 2px;">ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習をふりかえる ・気付いたことや、これからできそうなことを一人一言ずつ話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者全員に一言ずつ感想を述べてもらい、全体で共有する。 ・可能であれば、参加しての感想を記入してもらう。 	ワークシート	

Ⅱ-2

いやいや期をどうのりこえる？（2歳児）

対象：2歳児をもつ保護者

時間：80分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2歳児の特徴を確認する。 ○ 2歳児への関わり方の基本を学ぶ。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに共感しながら、自立を援助することの大切さを理解することができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 付せん紙（青・黄） ○ 模造紙 		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク (我が子自慢) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「我が子自慢」+名前で自己紹介をする。 	3つの約束
展開 30分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・最近の子どもの様子(困ったこと)をグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎最近のお子さんの様子(困ったこと)を共有することで、困っているのは自分だけではないことを理解することをねらいとする。 ・個人で付せん紙(青)に書き出す。 ・模造紙に付せん紙を貼り付けながら自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 	付せん紙(青) 模造紙
	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク1で出し合った事柄の対応策をグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワーク1で出た事柄の対応策を考え合うことで、いろいろな関わり方に気付くことをねらいとする。 ・ワーク1で出し合った困った事柄の対応策を考え、付せん紙(黄)に書き出す。 ・ワーク1で使用した模造紙のそれぞれの事柄の近くに付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。 	付せん紙(黄) ワーク1の模造紙
	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにある資料を読む。 ・ワーク2で出た内容を参考に、自分の子育てに取り入れていけそうなことを考え、記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いやいや期をのりこえるために、自分にできそうなことを考え、“これならできるかも”“やってみよう”と前向きに考えられるようにすることをねらいとする。 ・資料を読み、2歳児の特徴を確認することによって、2歳児への関わり方のヒントになることを気付かせる。 ・人それぞれの対処法を知り、実際にできそうなことを自分自身の中で整理する。 	ワークシート
まとめ 10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・グループ内で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク時の「我が子自慢」を思い出して我が子が愛おしい存在であることを再認識する。 	ワークシート

Ⅱ-3

子ども同士のトラブル…どう解決する？（3～4歳児）

対象：3～4歳児をもつ保護者

時間：80分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3～4歳児にトラブルが生じる理由を理解する ○ 3～4歳児のトラブルへの関わり方の基本を学ぶ。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに共感しながら関わることの大切さを理解することができる 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 名札 		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク (名札づくり) (自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、氏名と今日呼んでほしい名前、今日参加した理由などを互いに話すことでリラックスできるようにする。 	名札 3つの約束
展開	10分 ワーク1	◎最近の自分の子どものトラブルを思い出し、3～4歳児の特徴を共有することをねらいとする。 ・ワークシートに子ども同士のトラブルを記入する。 ・話しやすい雰囲気にする。	ワークシート
	25分 ワーク2	◎子どもに共感しながら関わることの大切さに気付くことをねらいとする。 ・子どもたちとショウくんのお母さんの気持ちはどうだったのか、お母さんたちはどう関わればよかったのかについてグループで話し合う	ワークシート
	30分 ワーク3	◎気づきとこれから自分にできることを共有することをねらいとする。 ・資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・ワークシートに自分にできることを記入する。 ・グループで気付いたことや自分にできることを話し合うことで、互いに知恵を得られるようにする。 ・まず「子どもにとってどうか」から考えることを大切にすることを押さえる。	ワークシート
まとめ 5分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい、全体で共有する。 	ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・数名発表し、全体で共有する。 		

II-4

子どもは「生き生き」してる？（4～5歳児）

対象：4～5歳児をもつ保護者
時間：90分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4～5歳児の特徴を把握する。 ○ 4～5歳児の「生き生き」した活動を促すためのポイントを学ぶ。 			
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの「生き生き」した姿をできるだけ多くイメージし、子どもの気持ちに共感することが大切であることに気付くことができる。 			
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート（2枚を別々に印刷する） ○ アンケート（必要に応じて） ○ 名札 ○ 油性マーカー ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ 資料（「場面シート」） 			
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・自己紹介 ・3つの約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、氏名と今日呼んでほしい名前、今日参加した理由などを互いに話すことでリラックスできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 名札 3つの約束 	
展開 25分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・わが子の「生き生き」していた場面について付せん紙に記入する。 ・子どもの姿を観察できるよう多くの場면을思い浮かべる。 ・付せん紙を紹介しながら模造紙に貼り、グループで共有する。 ・グループ内で気付いたことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの「生き生き」していた場면을思い出すことや、4～5歳児の特徴について再確認し、改めてわが子の成長を感じることをねらいとする。 ・できるだけたくさんの場면을思い浮かべるよう促す。 ・「場面シート」を配付し、生活の中のあらゆる場面で子どもの「生き生き」とした姿を見ることができると促す。 ・付せんは後からでも追加できることを伝えておく。 ・付せん紙を紹介し、似た意見を近くに貼りながら、どんな時に4～5歳児が「生き生き」しているか大まかに整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの1枚目 付せん紙 油性マーカー 模造紙 資料 	
	20分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合いながら、キーワードでまとめる。 ・グループでまとめたことを発表し合い、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもがなぜ「生き生き」していたのか、子どもの立場になって考えることをねらいとする。 ・グループで、子どもが「生き生き」するために大切な視点と考えられることをキーワードでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの1枚目 油性マーカー
	25分	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート内の資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・実践しやすいアイデアを出し合い、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「生き生き」した活動を促すポイントに気づき、これからの生活で実際にできそうなことを見つけることをねらいとする。 ・ワークシートの資料から4～5歳児の特徴や関わり方を考える。 ・子どもの実態や自分自身の生活に応じて、無理なくできそうなことから考える。 ・グループ内で共有し、より多くのヒントを得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの2枚目
まとめ 10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で感想を共有する。 ・何人かに発表してもらい、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの2枚目 	

Ⅱ-5

子育てのイライラとうまく付き合おう

対象：乳幼児をもつ保護者

時間：80分程度

ねらい	○ 子育てのイライラしてしまう感情とうまく付き合っている基本を学ぶ。		
実施のポイント (評価など)	○ 子育てのイライラ感情を共感することができる。 ○ 子育てのイライラ感情とうまく付き合う方法を共有することができる。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 付せん紙(青・黄) ○ 模造紙		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (ストレス発散法) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ストレス発散法」+名前自己紹介をする。 	3つの約束
展開	10分 ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> エピソードをもとに、子ども達とパートナーの行動を想像して書く。 グループ内で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎どこにでも誰にでもありそうな状況であることに気付くことをねらいとする。 ●ワークシートに子ども達とパートナーの行動を想像して書く。 	ワークシート
	20分 ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> イライラした経験をグループで話し合う。 資料1を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎イライラは誰もがもっている感情であることを全体で共有することで、困っているのは自分だけではないことを理解することをねらいとする。 ●個人で付せん紙に書き出す。 ●グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 ●全体で資料1を読むことで、子育てのイライラ感情を共感し、みんなで考えようとする雰囲気づくりにつなげる。 	付せん紙(青) 模造紙 資料1
	20分 ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> イライラ感情をコントロールする方法をグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いろいろなコントロールの方法を全体で共有することで、イライラ感情とうまく付き合いながら育児をしていこうとする前向きな気持ちになることをねらいとする。 ●個人で付せん紙に書き出す。 ●グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 	付せん紙(黄) 模造紙
まとめ 15分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 資料2、3を読む。 感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料2を読み、子育てはイライラすることも多いが無理をせずうまく付き合いながら楽しむよう伝え、まとめる。 ●時間があれば、資料3を見ながら実際にやってみる。 	ワークシート 資料2 資料3

Ⅱ-6

「分担」から「協働」へ
～協働すると、子育てのうれしさ・楽しさ2倍！～

対象：乳幼児をもつ保護者

時間：90分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周囲の人を子育てに巻き込む。 ○ 周囲の人が子育てに積極的に関わようになるポイントを考える。 			
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てを一人で抱え込まず、パートナーや家族と共に子育てをしていこうという思いをもつことができる。 ○ パートナーや家族と共に子育てし、子どもの成長の喜びを分かち合えるという捉え方をすることで、より前向きに・積極的に取り組めることに気付くことができる。 			
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4～5人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 付せん紙(青・黄) ○ ペン ○ 模造紙 			
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物	
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク(自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、子どもとの時間でうれしかったことを挙げてもらい、学習のねらいに迫れるようにする。 	3つの約束	
展開	25分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとに、子育てをしている中で、自分一人ではどうにもならなくて困った場面を挙げる。 ・グループ内で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の子育ては一人でがんばりすぎていないかを振り返ることをねらいとする。 ・個人で付せん紙に書き出す。 ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 ・グループでの共有時間をしっかり確保する。 	付せん紙(青) ペン 模造紙
	5分	<p>資料紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにある資料を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎もっと周囲に頼ったらよいことに気づくことができることをねらいとする。 ・資料をもとに「協力してほしい」と伝えたり「私はこうしたい」と相談したり、「対話する」ことの大切さについて説明する。 ・その時の伝え方が重要になることを説明する。 	ワークシート
	30分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク1で出てきた場面の解決策について、グループで話し合う。 ・全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎解決策を知ること、ゆとりをもって前向きに子育てしようと思うことができることをねらいとする。 ・個人で付せん紙に書き出す。 ・グループ内で、ワーク1で使用した模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。 ・“私はこんなふうになっているよ”と実際に行っていることなどはもちろん、“こんなふうにしたらどうかな?”とアドバイス・提案してもよい。 ・全体共有では、各グループの模造紙を見て新しいアドバイスを書いたり、グループのメンバーを入れ替えたりして、広く解決策が得られるように工夫する。 	付せん紙(黄) ペン ワーク1の模造紙
まとめ 15分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想をグループ内で発表する。 ・数名発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎もっと周囲に頼って一緒に子育てをすることで、子どもの成長の喜びを分かち合えることに気付くことができることをねらいとする。 ・これからの子育てで、ワーク2で出てきた解決策をどのように生かすか考える。 ・“対話する”こと以外の自分一人ではどうにもならなくて困った場面の解決策の例として、ポータルサイト「おかやまはぐくまーれ」や各自治体の子育て支援に関するサービスを紹介してもよい。 	ワークシート	

Ⅱ-7

そういえば自分も…考えよう 認めよう ～子どものいいところ・気になるところ～

対象：乳幼児をもつ保護者（学童期も可）
時間：80分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人ひとりの個性や発達の様子には、違いがあることを理解し、それぞれの存在の大切さを再認識する。 ○ 子どものいいところ・気になるところのとらえ方は人（保護者）それぞれであることに気づき、幅広い見方で子どもに接することが大切であることを認識する。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者同士が自分の子どもについていいところや気になっているところを自由に交流し合うことができるようにする。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ3～4人のグループに分けておく ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 付せん紙（青・黄） ○ 模造紙 		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク (子どもの頃好きだった○○) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの頃好きだった○○」+名前前で自己紹介をする。 ・平等、尊重、守秘 	3つの約束
展開	10分 ワーク1	◎自分が子どもだった頃の「いいところ」と言われていたところを共有することで、いろいろな個性があってもいいということに気づくことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で付せん紙（黄）に書き出す。 ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 	付せん紙（黄） 模造紙
	15分 ワーク2	◎「当時気にしていたところ」「注意されていたところ」も共有することで、いろいろな個性があってもいいということに気づくことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で付せん紙（青）に書き出す。 ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た意見の付せん紙をまとめる。 	付せん紙（青） 模造紙
	15分 ワーク3	◎ワーク2の「当時気にしていたところ」「注意されていたところ」を「いいところ」として見方を変えることで、多面的に捉えることができるようになることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングについて説明する。 ・個人でリフレーミングした内容を付せん紙に書き出す。 ・グループ内で、ワーク2で使用した模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。 	ワーク2の模造紙 付せん紙（黄） 資料（参加者の様子を見て配付する。）
	20分 ワーク4	◎私たちの子どもを見つめ直す（いいところ・気になるところ等）ことで、子どものありのままを受け入れてあげられるように意識していくことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どものいいところ（黄）や気になるところ（青）を付せん紙に書き出す。 ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、気になるところをリフレーミングする。 	付せん紙（青・黄） 模造紙
まとめ 10分	ふりかえり	◎印象に残ったことや思ったことをワークシートに記入することで、活動を振り返り、自分自身の意識の変化や高まりに気づくことができることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・グループ内で発表し、共有する。 	

Ⅱ-8

本を通して親子でコミュニケーション ～読み聞かせ、どうしてる?～

対象：幼児期（4～6歳）の子どもをもつ保護者
時間：45～60分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親子で楽しい時間を共有し、親子の絆を深める手段の一つとして「読み聞かせ」があることを理解する。 ○ 図書館を利用してみようという気持ちをもつ。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てで必要な子どもへの声かけ・ふれあいの一つとして「読み聞かせ」があり、親子で楽しい時間を共有する大切さを理解することができる。 ○ 子どもと本を通して楽しい時間を共有しようという気持ちをもつことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 付せん紙（青・黄） ○ 模造紙 ○ ペン ○ 名札 ○ 参加者の子どもが興味をもちそうな本 ○ 図書館利用案内 ○ おすすめ図書一覧（参加者の身近な図書館が発行しているもの） ○ 図書館イベント情報（参加者の身近な図書館が発行しているもの） 		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5～10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク（自己紹介） 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者自身の幼い頃の読み聞かせの経験や現在の読書実態等を自己紹介に取り入れ、プログラムのテーマに関心を引き寄せたり、グループの中の役割を決めたりする。 	名札 3つの約束
展開 10分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとに、グループで話し合う。 	◎子どもへの読み聞かせで困った経験があることを共有することをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとに、どんな声かけをするか話し合う。 ・共感しながら聞くことで、読書傾向や読み聞かせで困ったことを発言しやすい雰囲気を作る。 	ワークシート
20～25分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・「困ったこと」「良かったこと」について、グループで話し合う。 ・乳児期の読み聞かせのポイントを知る。 	◎子どもへの読み聞かせで困ったことや良かったことを話し合う中で、幼児期では親子で楽しい時間を共有する大切さを理解することをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「困ったことや気になること」を付せん紙（青）に、「良かったこと」を付せん紙（黄）に個人で書き出す。 ・グループ内で、模造紙に付せん紙を貼り付けながら、困ったことに対してどう対応をしているか話し合う。 ・資料1をもとに、困ったことへの対応（同じ本でも大丈夫、物語にこだわらなくてよいこと、就寝前でなく親子の時間が取れるときでよいこと等）を確認し、幼児期の読み聞かせは親子で楽しい時間を共有することが大切であることを理解する。 ・資料2をもとに「読み聞かせの大切さ」にふれる。ただし「やらないといけない」という押しつけにならないように注意する。 	付せん紙（青・黄） 模造紙 資料1 資料2
5～10分	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの疑似体験をする。 	◎子どもに対して読み聞かせを「やってみよう」という気持ちを高めることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ファシリテーターが参加者へ」または「グループごとに代表が」読み聞かせをする。 ・読み聞かせについて感想を交流する。 ・図書館等、絵本と出会える場所を紹介する。 	参加者の子どもが興味をもちそうな本
まとめ 5分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせは義務的にするものではなく、親子で絵本を通じて一緒に遊んだり、リラックスしたりする過ごし方の一つとして行ってほしいこと、本と一緒に読むだけでなく実体験との呼応が大切であることを伝える。 ・親子で過ごす楽しさや経験が、子どもが中高生に成長したときも親子の絆として残ることを伝える。 ・図書館利用を呼びかける 	ワークシート 図書館利用案内や本の紹介、イベント情報等

Ⅱ-9

自分でできたよ！うれしいな ～入学までに応援できること～

対象：小学校入学前の子どもをもつ保護者
時間：45分程度

ねらい	○ 親子で安心した気持ちで小学校生活をスタートするために、保護者として大切にしたいポイントについて考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 小学校入学時に「自分のことは自分でできる」という自信を持つことができるように、関わり方のポイントについて考えることができる。		
事前準備	○ あらかじめ4人組に分かれておく。 ○ 筆記用具(黒・カラーペン) ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 資料 ○ 付せん紙(ピンク・青・黄) ○ 名札 ○ 模造紙		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(子どもの名前) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介では、保護者や子どもの名前等について話をするので、互いに親近感がもてるようにする。 	名札 3つの約束
展開 10分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 学校生活を迎えるにあたって、大丈夫だと思うことや不安だと思うことをグループで話し合う。 	◎小学校生活をスムーズにスタートするにあたって、「自分のことは自分でできる習慣」を身に付ける必要があることに気付くことをねらいとする。 ●資料1を見て、小学校生活のイメージをふくらませる。 ●子どもの様子で、「小学校に入学しても大丈夫だと思うこと」を付せん紙(ピンク)に、「少し不安だと思うこと」を付せん紙(青)に個人で書き出す。その際、1つの付せん紙につき1つずつ思いつくことを書き出す。 ●グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、交流する。	資料1 ワークシート 付せん紙(ピンク・青) 模造紙
	5分 資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、5歳児の発達の特徴を知る。 	◎大人の感覚に子どもを合わせるのではなく、発達段階を踏まえた関わりが大切であることに気付くことをねらいとする。 ●子どもの発達は個人差が大きいので、ゆっくりと構えることも大切であることを伝える。	資料2
	15分 ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ワーク1をもとに入学に向けた子どもへの関わり方についてグループで話し合う。 グループの意見を発表し、全体で共有する。 	◎子どもの入学に向けて、保護者としてできることを考えることをねらいとする。 ●個人で付せん紙(黄)に書き出す。 ●グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。 ●わが子のことはもちろん、グループの人へもアドバイスするよう伝える。 ●無理をせず、できることから行うことを伝える。 ●グループで話し合った後、数名に感想を求め、全体で共有する。	ワークシート 付せん紙(黄) 模造紙
まとめ 10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 感想を記入する。 グループ内で感想を発表する。 時間があれば、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、親子で入学に向けて楽しみをもちながら、できることから取り組むよう伝える。 困った時は、思いを言葉で伝えたり、尋ねたりできるように「自分の気持ちを言葉で伝える」ことも大切であることを確認する。 保護者自身も困ったことがあれば、学校や周りの保護者に相談するなど、一人で抱え込まないようにすることを伝える。 	ワークシート 資料3

Ⅱ-10

私の子育て、これでいいの？

～開かれた子育て関係～

対象：乳幼児期の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	○ 子育てにおいて自分の価値観と異なるものに触れたときに感じる戸惑いや疑問を共有し、価値判断のプロセスを理解するとともに、多様な価値観を受け入れながら子育てをしていきたいという思いをもつ。				
実施のポイント (評価など)	○ 他者との子育て観の違いを感じる場面を想起し、誰もが同じようにストレスを感じていることを共有する。 ○ 自分の価値観を大きく揺さぶられる経験をする中で、価値判断の過程や思考のプロセスについて考え、誰もが揺らぎながら子育てをしていることに気付く。 ○ 日頃から心を柔軟にして多様な考え方を受け入れ、揺らぎながら子育てをしていくことの大切さに気付く。				
事前準備	○ あらかじめ4人程度のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙 (必要に応じて) ○ 資料 ○ 付せん紙 ○ 名札				
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物		
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 和やかな雰囲気づくりをする。 発言順を決めておく。 自己紹介の中で子育てについての知識や情報を主にどこから得ているかを話す。 	名札 3つの約束	
展開	8分	ワーク1	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる価値観に触れた場面を想起し、気持ちをグループ内で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子育てに関して他者との考え方の違いから生まれる戸惑いは誰もが感じていることに気づき、異なる価値観に触れたときに感じるストレスを共有することをねらいとする。 ワークシートに自分とは異なる価値観に触れた場面を思い出し記入する。 想起しやすいように、ファシリテーター自身のエピソードを話したり、戸惑いを感じた場面を例示したりする。 ワーク1で話したことをファシリテーターが紹介し、ワーク2につなげる。 	ワークシート
	30分	ワーク2	<ul style="list-style-type: none"> AかBを選択し、その理由をグループ内で発表する。 自分が選択した資料を読む。 グループの意見を聞いて、改めてAかBを選択する。 自分が選択していない資料を読み、改めてAかBを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎異なる価値観に触れ、自分の価値観が揺らぐ経験することをねらいとする。 「わがまま」について「A許す」「B許さない」のどちらかを選び、付せん紙に記号を書いて示す。 選んだ理由や子どもの頃の経験や自分を取り巻く環境等を話すことで、それぞれの価値観の背景を共有する。 ファシリテーターは子どもの頃の経験を思い出したくない人もいることをふまえておく。 自分が選択した資料を読んだ後、グループの意見を聞いて思ったことを記入し、改めてAかBかを選択する。 自分の価値観とは真逆の価値観(資料)を読んで、自分の価値観が大きく揺さぶられる経験をする。 資料は真逆の価値観に触れることが目的であるため、真逆の価値観が「正解」として捉えられないよう配慮する。 	ワークシート 資料A 資料B 付せん紙
	7分	ワーク3	<ul style="list-style-type: none"> 価値判断のプロセスを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワーク2をふりかえり、思考のプロセスに気付くことをねらいとする。 思考の変化をふりかえり、何かの影響を受けて価値判断をしていることに気付くとともに、自分と他者との意見が異なることは当たり前だと感じることができる。 	ワークシート
	5分	資料紹介	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある資料を読み、自分の価値観、他人の価値観をお互いに認め合う関係をつくることの大切さに気付く。 	ワークシートにある資料
まとめ	5分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> 感想を記入する。 感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習についての感想を記入し、グループ内で発表し、実践への意欲を高めることをねらいとする。 本日の学習を受けて、家庭や子どもとの関わりの中で実践してみたいことを書く。 	ワークシート

Ⅱ-11

たっぷり愛して、しっかり認めよう ～子どもの自己肯定感を育む関わり方～

対象：乳幼児期の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	○ 多少困難な場面に子どもが直面してもその子なりに乗り越えられるよう、自己肯定感が高まる適切な親子の関わり方について考え、わが子とよりよく関わっていかうと再認識する。		
実施のポイント (評価など)	○ これまでのわが子との関わり方を振り返ったり、子どもの立場を体験したりすることで、わが子の自己肯定感が高められるような子どもへの関わり方について考える。		
事前準備	○ あらかじめ4～6人グループに分かれておく。(偶数が望ましい) ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート(必要に応じて) ○ 資料 ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介では「わが子のいいところ、私のいいところ」を紹介しワークへつなげる。 	ワークシート 3つの約束
展開 20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 役割演技をとおして、自己肯定感を高められるようなより良い関わり方を考える。 演技をしてみたの感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いくつかのエピソードをもとにした役割演技を行い、体験して感じたことを実生活に生かせるようにすることをねらいとする。 ●些細なことでも褒めることの大切さに気付くよう、身近に起こりそうなエピソードを取り上げる。 ●役割演技を体験した感想を共有する。特にエピソード①については、声の掛け方によって親子の関係にも影響することにふれる。 <p><各エピソードのねらい> ①～③同様</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ内で役割交代することで、関わり方の答えはひとつではないと気付くことができるようにする。 ●関わり方の例として、次のようなものも必要に応じて紹介する。 ※「ありがとう」「がんばってるね」 ※認めることが難しい場面(忙しい時など)では、子どもの話をしっかり聴くこと。子どもの話を繰り返す。 	ワークシート エピソード①～③
	15分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ●自己肯定感を育む関わり方について、グループで話し合う。 ●グループの意見を発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎具体的な場面を想定しながら、自己肯定感を育む関わり方を知ることがねらいとする。 ●自分の考えを個人で付せん紙に書き出す。 ●グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合うことで、様々な方法を知る。
まとめ 15分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ●資料を読む。 ●感想を書き、グループ内で発表する。 ●数名発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎資料をとおして、自己肯定感の定義や自己肯定感を育む方法について知り、自己肯定感が高いと少しの困難でも乗り越えられる力をもつことができるということに気付くことをねらいとする。 ●資料は参加者にあわせて選択する。 ●今後の子育てに生かせるよう、ふり返りシートに記入し、関わり方に悩んだら、一人で悩まず助けを求めよう伝える。 	ワークシート 資料1(未就学児対象) 資料2(学童期対象) 資料3(必要に応じて配付)

Ⅱ-12

子どもの心に寄り添うって ～子どもの心のおくのおく、見えていますか～

対象：乳幼児をもつ保護者（学童期も可）
時間：60分程度

ねらい	○ 子どもの育ちには、安心することと自らの意思で挑戦することの繰り返しが必要であることに気づき、子どもの権利を意識した関わりについて考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 日常生活の中での子どもの考えや気持ちに気づくことができるようにする。 ○ 安心したり挑戦したりすることを繰り返しながら子どもが成長することや、子ども一人一人が尊重され、権利が守られる中で、自尊感情が育まれることの大切さを実感できるようにする。		
事前準備	○ あらかじめ4～6人程度のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 付せん紙（青・黄） ○ 模造紙 ○ 油性マーカー ○ 名札 ○ 絵本（読み聞かせをする場合）		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク（自己紹介） 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の緊張をほぐし、和やかな雰囲気をつくる。 自己紹介で「我が子のいいところ」を紹介し合うことで、互いに親近感がもてるようにする。 	名札 3つの約束
展開 20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが何かに夢中になったり、自ら挑戦したりする姿を思い出して、付せん紙に書く。 グループで話し合う。 	◎エピソードのように子どもが何かに夢中になったり、自ら挑戦したりする姿を思い出して話し合うことで、子どもの意思に気づききっかけをつくることをねらいとする。 ・エピソードを読んで、母親の気持ちや子どもの気持ちについて話し合う。 ・日頃の子育て場面から、子どもが夢中になったり挑戦したりする姿を思い出して付せん紙（青）に書き出す。 ・その時の親の思いや気持ち、感動したことや難しさなどを付せん紙（黄）に書き出す。 ・グループ内で模造紙に付せん紙を貼り付けながら、自由に話し合う。その際、似た場面の付せん紙をまとめる。 ・プラスのイメージとマイナスのイメージのどちらも認められることができるようにする。 ・付せん紙から出てきた場面での子どもの考えや気持ちなどを想像できるようにする。 ・この活動を通して子どもの意思に気づき、寄り添えるようにする。	ワークシート 付せん紙（青・黄） 油性マーカー 模造紙
	10分	読み聞かせ または資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせ、または資料の紹介をする。 	◎絵本または資料をとおして、普段の子どもへの関わりについて、自分自身を振り返ることをねらいとする。 絵本の読み聞かせを選択する場合 ・親子の気持ちを感じられるよう、工夫して絵本を読む。 ・読み聞かせの後、絵本の感想を交流する。絵本の話についての感想でもよいし、自分自身を振り返りながら、日頃の子育てに重ね合わせた感想でもよい。 資料の紹介を選択する場合 ・資料を用いて、子育てのヒントにつながる「自尊感情」「人権教育」「安心と挑戦の繰り返し」などについて紹介することで、就学前に必要な大人の関わりについて確認する。
20分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> 普段の関わりを振り返り、今後心がけていきたいことを記入する。 グループ内で発表する。 	◎親として、子どもの意思を尊重した関わり方について考えることをねらいとする。 ・ワーク1や紹介した絵本、資料を踏まえ、普段の関わりを振り返り、今後心がけていきたいことを出し合う。子どもの考えや気持ちに寄り添った言葉掛け、安心したりやる気を出したりできるような言葉や関わり方について、日常の場面を話題にしながらかえる。	ワークシート
まとめ 5分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 資料を提示する。 今後、取り組みたいことを一つ選んで記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの考えや気持ちに寄り添い、思いが実現するように支えることが「子どもの権利を意識した関わり」であることを知らせる。 本時で選択しなかった資料を、必要に応じて参考資料として提示する。 本日の話し合いの中で、「これはできそう」とか、「これをやってみよう」ということを一つだけ選んでワークシートに書き込むことにより、実際の行動につなげる。 	ワークシート 本時で選択しなかった資料を必要に応じて提示

Ⅱ-13

楽しく遊んで 体を動かそう！

対象：幼児期の子どもをもつ保護者
時間：50～70分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの体力低下の原因について考え、発達段階の特性から、幼児期に様々な運動や遊びをすることの大切さを認識する。 ○ 家庭でできる体を使った遊びを体験し、子どもと実践してみようという気持ちをもつ。 			
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを取り巻く環境の変化から、意図的に体を使った遊びをすることの必要性に気付くことができる。 ○ 幼児期に継続的に体を使って楽しく遊ぶことが、大人になってからの身体活動や健康に影響を与えることを理解することができる。 			
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ タオル（1人1枚持参。フェイスタオルが望ましい。） ○ 新聞紙（準備できる場合のみ。1人1部程度使用する。） ○ *ガムテープ（またはセロハンテープ） ○ *ごみ袋 ※新聞紙を使った遊びを体験する場合のみ ○ あらかじめ4名程度のグループに分かれておく。 			
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物	
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの趣旨説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク（自己紹介） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の中で、自分が幼児期に好きだった体を使った遊び（鬼ごっこ、なわとび、三輪車など）を紹介する。 	3つの約束
展開	10分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとにグループで話し合う。 	◎子どもの遊びや、子どもを取り巻く環境について考えることをねらいとする。	ワークシート
	5分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・体力低下の背景に関する資料と発達特性に関する資料の説明を聞く。 	◎子どもの体力低下の原因と幼児期に体を使った遊びをすることの重要性について知ることをねらいとする。	資料1 資料2
	15～35分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・最近、子どもが友達や兄弟と、どのような体を使った遊びをしているかを考える。 ・最近、親子でどんな体を使った遊びをしているかを考える。 ・簡単な体を使った遊びを考え、体験する。その際、子どもにかけ声の事例も考えて実施する。 	◎簡単な道具を使った遊びや、家庭でできる体を使った遊びがあることに気づき、実際に体験するとともに、子どもが運動を好きになる声かけについて考えることをねらいとする。	ワークシート 資料3の① 資料3の② 資料3の③ 資料3の④ タオル 新聞紙 ガムテープ（セロハンテープ） ごみ袋
			<ul style="list-style-type: none"> ・最近、子どもがしている体を使った遊びや、親子でしている体を使った遊びをワークシートに書いて、グループ内で発表する。 ・資料3を参考に、幼児期に身につけさせたい動きと、簡単な道具でできる遊びの例を知り、子どもと一緒にできそうな遊びと、その際に子どもにかけ声かけをワークシートに書く。 ・グループのメンバーと2人1組になって、子どもとできそうな遊びを体験する。その際、子どもにかけ声かけも実施する。 ※道具を使った遊び体験は、タオルを使ったものと新聞紙を使ったものを紹介しているが、どちらか一方の体験だけでもよい。 ・新聞紙を使った遊びを体験する場合、必要に応じてガムテープ（セロハンテープ）で新聞紙を加工する。 ・使い終わった新聞紙は、ごみ袋に回収する。 	
まとめ	10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・数名発表し、全体で共有する。 ・運動の持ち越し効果の資料の説明を聞く。 	◎学習をふりかえり、実践への意欲を高めることをねらいとする。	ワークシート 資料4
			<ul style="list-style-type: none"> ・今日の感想をワークシートに書いて、グループ内で発表する。 ・資料4を参考に、子ども時代の遊びや運動習慣が及ぼす影響を知ることで、家庭でも運動遊びをしようとする意欲を高める。 	

Ⅱ-14

子どもの名づけの由来から 育みたい非認知能力を考えよう

対象：4～6歳児をもつ保護者
時間：30～45分程度

ねらい	○ 「子どもの名前の由来」「どんな子に育てほしいか」を振り返り、保護者が子どもに望む姿が「非認知能力」に重なることに気付くことで、非認知能力を身近に感じ、伸ばしていこうという気持ちを育む。		
実施のポイント (評価など)	○ 非認知能力を知らない保護者にとっても考えやすい「由来」(子どもに望む姿)というテーマのワークを通じて、非認知能力を身近に感じることができるようになる。 ○ 「由来」がないという保護者は、「どんな子に育てほしいと思うか」について考えることができるようになる。 ○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 資料 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(簡単な交流・自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、流れ等について説明する。 3つの約束を守るように周知する。 参加者の緊張をほぐす。 	名札 3つの約束
展開 15分～20分	<p style="background-color: #d9ead3; padding: 2px;">ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> エピソードを読む。 自分の子どもの名づけの由来や、どんな子に育てほしいかという想いを書く。また、今の子ども様子も書き込む。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎お子さんが生まれたときのことや、これまでの子どもの成長などを振り返ることで、生まれたころの子どもへの願いや思いを想起させることをねらいとする。 ・記入したことを参加者同士で共有し、話の中で視野を広げる。 ・今の子ども状態を振り返ることで、参加者同士の対話・共感が生まれるようにする。 ・由来がないという参加者には、「どんな子に育てほしいと思うか」を考えてもらう。	ワークシート
5分～10分	<p style="background-color: #d9ead3; padding: 2px;">資料紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。 	◎「非認知能力」を伸ばしていくためには、プロセスを重視することの大切さを伝え、就学前は特に大人の関わりが大切であることに気づくようにすることをねらいとする。 ・参加者が書いた子どもへの想いが「非認知能力」であることを伝えてから資料を紹介する。 ・ここでは、「非認知能力」の基礎的なことを伝える程度にとどめる。	資料1 資料2 資料3
まとめ 5分～10分	<p style="background-color: #d9ead3; padding: 2px;">ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークを通じての気づきや感想を「振り返り」に書き込む。 グループで感想を話し合う。 時間があれば全体で共有する。 	◎話し合いの中で出た印象に残ったことや思ったことをワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。 ・さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。	ワークシート 研修のチラシ

Ⅱ 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅱ-15

がんばった、がんばっている姿を大切にしよう！

対象：4～6歳児をもつ保護者

時間：55～65分程度

ねらい	○ 「子どものがんばっている姿」を振り返ることで、それらが非認知能力に結びついていることに気づき、これからの子どもへの関わりを考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 「自身のがんばっていること」を考えるワークを通して、非認知能力について身近に感じることができるようになる。 ○ 自分の経験から「がんばる」という言葉に特定のイメージを持ち、子どものがんばる姿が一つの力に偏る保護者には、書き込む時間やグループでの発表時に声をかけて視野が広がるようにする。 ○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (簡単な交流・自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、流れ等について説明する。 3つの約束を守るように周知する。 参加者の緊張をほぐす。 	名札 3つの約束
展開 20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 自分自身が、がんばったと思える出来事(経験)を思い出し、それはなぜがんばることができたのかを書き込む。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎自分のがんばった経験から「非認知能力」についての興味や関心を引き出し、「なぜがんばることができたのか」を考えることで、どのように「非認知能力」を自分自身が育ててきたのかを知ることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 出来事が1つの「力」に偏る保護者には、視野を広げるために3つの力それぞれの事例を出したり、「他になぜがんばれたのか」と質問をしたりして、参加者の視野が広がるようにする。 自分がなぜがんばれたのかを共有することで、「がんばることが」できる(「非認知能力」を育む)には様々な理由があることを気づけるようにする。 	ワークシート
5分～10分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。 	◎「非認知能力」を伸ばしていくためには、プロセスを重視することの大切さを伝え、大人の関わり方の大切さにも気づくよう促す。ふれあい遊びを楽しみながら、親子の信頼関係がはぐくまれることを伝えることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> がんばることに自分自身が「価値を見つける」ことができているからがんばれることを伝える。 「非認知能力」の基礎的なことを伝え、3つの力の特徴から、ワーク1の出来事がどの力に当たるかを気づくようにする。 	資料1 資料2 資料3
20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 子どものがんばった、がんばっている姿について考えて書く。また、子どもの「なぜがんばることができたのか」を考える。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎普段の子どものがんばっている様子から、どんな「非認知能力」が身についているかを参加者が気づき、「どうしてがんばることができたと思うか」を考えることで、どうしたら「非認知能力」が身についていくのかに気づくことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 記入したことを参加者同士で共有し、話の中で視野を広げる。 見方を変えると違った力にも結びつくことを伝える。 参加者や周りの大人の、これまでの関わりやすらしさを承認する。 	ワークシート
まとめ 5分～10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ワークを通じての気づきや感想を「振り返り」に書き込む。 	◎今後子どもとどのように関わっていきたいか等をワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。 	ワークシート 研修のチラシ

Ⅱ 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅱ-16

子どもの成長を振り返ろう

対象：4～6歳児をもつ保護者

時間：50～60分程度

ねらい	○ 子どもの成長を感じる姿・行動を振り返り、それらがどんな力に結びついているか考えることで非認知能力はいろいろあることを知る。		
実施のポイント (評価など)	○ 子どもの成長した姿から、我が子に育まれている非認知能力に気づき、さらに伸ばすためには子どもの周りにある環境や大人の関わりが大切であることに気づくようにする。 ○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (簡単な交流・自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、流れ等について説明する。 3つの約束を守るように周知する。 参加者の緊張をほぐす。 	名札 3つの約束
展開 15分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> エピソードを読む。 普段の子どもの様子から成長を感じることを書く。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎エピソードのように普段の子どものできているところに目を向けることで、成長を感じることができるという視点をもつことをねらいとする。 ・後半で分類をするため、可能であれば複数書いてもらう。 ・記入したことを参加者同士で共有することで、自分では気づけなかった視点や子どもの姿に気づくことができるようにする。	ワークシート
5分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。 	・「非認知能力」の基礎的なことを伝えることで、次の3つの力に分ける活動がスムーズに行うことができるようにする。	資料1 資料2
15分～20分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長を感じる様子から非認知能力について書く。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎子どもの成長を感じる様子からどのような「非認知能力」に結びついているのかを参加者が気づくことをねらいとする。 ・分かる部分から記入するように声をかける。分からない部分がある人には、共有のときに他の参加者から意見をもらうようにする。 ・必ずしも1つの力ではなく、複数の力に結びつくこともあることを伝える。 ・何の力が悩んでいる人には、見方を変えて他にどんな力に結びつきそうか声掛けをする。 ・記入したことを参加者同士で共有することで、他の参加者からのコメントで他の力にも結びつける違った視点を得られるようにする。 ・グループで違った視点が出ない場合には、ファシリテーターからアドバイスをする。	ワークシート
5分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。 	・「非認知能力」を伸ばしていくためには、プロセスを重視することの大切さを伝え、大人の関わり方の大切さにも気づくようにする。 ・参加者や周りの大人のこれまでの関わり方のすばらしさを承認する。	資料3
まとめ 5分～10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ワークを通じての気づきや感想をに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの中で出た印象に残ったことや思ったことをワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにする。 さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。 	ワークシート 研修のチラシ

早ね早おき朝ごはん で 元気アップ大作戦！

対象：小学校低学年の子どもをもつ保護者

時間：60分程度

ねらい	○ 子どもの基本的な生活習慣を振り返り、子どもの健やかな成長には生活リズムを整えることが重要であることに気付く。そして、今後どのような点を続けて、どのような点を改善していくとよりよいかを、参加者相互の話合いから考える。			
実施のポイント (評価など)	○ より健康的な生活習慣を維持・改善するために意識したいことや、気をつけていきたいことについて考えることができる。 ○ 子どもに伝わる声かけや、子どもを尊重した関わりについて考えることができる。			
事前準備	○ あらかじめ4～5人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 名札			
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいや約束事項を確認する。 自己紹介により互いに親近感をもつことができるようにする。 	名札 3つの約束	
展開	20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> エピソードをもとに、グループで話し合う。 子どもの朝の様子を振り返り、グループで話し合う。 グループの意見を発表し、全体で共有する。 	◎子ども自身の生活習慣や心身の状態を振り返り、原因について考えることで、生活習慣を維持・改善するためにどのようなことが大切か気付くことをねらいとする。 ・エピソードを読み、登場人物の体調が良くない原因を考え、気付いたことをワークシートに書いて、グループ内で発表する。 ・子どもの朝の様子を振り返り、気付いたことをワークシートに書いて、グループ内で発表する。 ・グループで話し合った後、何人かの方に感想を求め、全体で共有する。	ワークシート
	15分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> 資料1を読む。 生活リズムを整えるために意識していることや気をつけていることをグループで話し合う。 グループの意見を発表し、全体で共有する。 	◎基本的な生活習慣を確立するための重要ポイントを確認したり、それぞれの家庭で大切にしていることを紹介し合ったりすることで、生活リズムの見直しには様々な視点があることに気付くことをねらいとする。 ・生活リズムを整えるために意識していることや気をつけていることをワークシートに書いて、グループ内で発表する。 ・グループで話し合った後、何人かの方に感想を求め、全体で共有する。	ワークシート 資料1
	5分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 資料2を読む。 	・資料2を読み、子どもの思いを尊重した関わりや、我が子や家庭の状況にあった工夫を続けることが大切であることを伝える。	資料2
まとめ 10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 参考になったことや気づいたことを記入する。 数名発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の気づきをワークシートに書いて、何人かの方に感想を述べてもらい、全体で共有する。 ファシリテーターは、発表内容に関連したコメントをし、まとめる。 	ワークシート	

Ⅲ-2 約束やルールを守る力、どうやって育てるの？

対象：幼児期の子どもをもつ保護者

時間：60分程度

ねらい	○ 子どもの約束やルールを守る力を育てるために、親として日常の関わりの中で大切にしたいポイントについて考える。			
実施のポイント (評価など)	○ 子どもと約束やルールをつくるときに心がけるべきポイントや、ルールを尊重し順守するためのポイントについて考えることができる。 ○ 約束やルールを守る力を育てるためには、土台として子どもの自己肯定感を育むことが大切であることについて考えることができる。			
事前準備	○ あらかじめ4～5人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 名札			
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク(自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいや約束事項を確認する。 自己紹介では、「子育てをされていて最近おもしろかったこと」について話すことにし、互いに親近感がもてるようにする。 	名札 3つの約束	
展開	15分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの家庭にある約束やルールを記入し、グループ内で発表する。 約束やルールを守ることにについて、できていることと、困っていることをワークシートに記入し、グループ内で発表する。 	◎約束やルールを守るということについて、子どもの生活を振り返り、できていることと、困っていることについて考えることをねらいとする。 ・成長している姿を少し多く話題に取り上げること、話しやすい雰囲気を進めていくことができるようにする。	ワークシート
	15分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> 家庭で約束やルールをつくる時に工夫したり、気をつけたりしていることを記入し、グループで話し合う。 グループの意見を発表し、全体で共有する。 	◎約束やルールをつくる時に工夫したり、気をつけたりしていることをお互いに紹介し合うことを通して、自分の考えを再認識したり、新たな気づきを得られたりすることをねらいとする。 ・子どもが約束やルールを大切に思い、守っていけるようにするために大切なことについて、参加者同士の交流を通して再認識したり、新たな気づきを得たりすることができるようにする。	ワークシート
	5分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 資料1・2の説明を聞く。 	◎資料1・2を読み、約束やルールをつくる時に心がけたいポイントや、ルールを守る力を育むための土台について知ることをねらいとする。 ・資料1から、子どもと一緒にルールを決めるためのポイントに気付くようにする。 ・資料2から、子どもが約束やルールを守る力を育む土台として、「あなたは大切な存在」という気持ちを伝えて自己肯定感を大切にすることに気付くようにする。	資料1 資料2
まとめ 15分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 約束やルールを守る力を育てるために取り組んでみたいことについて書く。 グループ内で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭の状況を踏まえながら、子どもの約束やルールを守る力の育成をめざした具体的な取組を考えることで、実践に向けた意欲につなげる。 書き込み後、時間があればグループ内で紹介し合う。ファシリテーターは、発表内容について価値づけをする。 家庭で約束やルールを守って生活することが将来の社会での法令順守につながることや、学校や地域など社会で学んだことが、家庭で活かされることを伝え、まとめとする。 	ワークシート	

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-3 ふりかえろう・子どもとの接し方

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：50分程度

ねらい	子どもとの接し方を振り返ることにより、子どもの人権について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの気持ちになるように役割演技をし、自分の言動を振り返ることができる。 ○ 他の人が考えている「理由」をたくさん聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3人(又は4人)組になれる席の配置をする。全員が立てるだけのスペースを空けておく。 ○ 資料 ○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・仲よし同士ばかりが一緒にならないようにアイスブレイクを行い、3～4人のグループをつくる。	
展開 10分	ワーク1 ・エピソード①を読む。 ・役割演技をする。 ・感じたことを書く。 ・グループで話し合う。 ・何人が発表する。	◎日頃の親の言動で、子どもを傷付けることもあることに気付くことをねらいとする。 (1グループに5人以上の場合は、観察役の人数を増やす) ※役割演技は、その場の雰囲気によって内容を自由にしてもよい。 ・それぞれの役の立場で感想を書き、話し合うよう伝える。 ・最後に、「子どもを、 <u>・・・だからと決めつけて見ていることはないか。</u> 」ということを問いかける。	
	10分 ・エピソード②を読む。 ・春男の気持ちを考え、シートに書く。 ・考えた言葉を紹介し話し合う。 ・何人が発表する。	・グループで春男の気持ちについて話し合う。 ・「真由美をほめているだけなのに、春男がとてもつらい」「友達ばかりをほめることも同じ」「片方をほめることは、もう一方は比べられていると感じている」ことをみんなで確かめ、最後にねらいを共有する。	
20分	ワーク2 ・自分の思いをシートに○を付ける。 ・ディレンマ・ゲームをする。	◎他の人の意見を聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることをねらいとする。 ・意見が割れている項目をいくつか選んで、ディレンマ・ゲームを行う。 ・時間がある場合には、すべての項目を行う。	資料
まとめ 5分	ふりかえり ・資料の説明を聞く。 ・全体に関する感想を出し合う。 ・ふりかえりを書く。 ・何人が発表する。	・子どもの人権に関わるものがたくさんあることに気付いてもらうよう説明する。 ・ふりかえりでは、今後取り組もうとすることを書き、何人かに発表してもらうことにより、考えを共有し、実際の行動へと促すようにする。 ・最後に、「家庭が、子どもの人権感覚をはぐくむ大切な場である」ことを伝える。	

※ 実施時間の関係から、ワーク1のみ又はワーク2のみの実施も可能である。

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-4 困ったことへの対処法

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：60分

ねらい	子どもをめぐる様々なトラブルに適切に対応することができるよう、その対処法を考え合うとともに、日頃から、保護者・先生・地域住民とのつながりを深めておくことの重要性に気付く。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ トラブルに対する不安感を軽減することができる。 ○ トラブルの対処法の幅を広げることができる。 ○ 周囲の協力を得ながら対処しようとする意欲を高めることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ6人程度のグループに分かれておく。 ○ 役割分担をする。(進行・記録・発表) ○ 助言者をお願いできる場合は、事前に打合せをしておく。 ○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、保護者や子どもの名前、気がかりな事などについて話することで、悩みを共有しようとする雰囲気づくりをする。 ・特定の参加者が批判されないよう留意する。 	
展開 15分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード文を読む。 ・ロールプレイを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人の気持ちを考える。 (個人で記入し、その後グループで協議) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎登場人物の心情を想像することで、子どもの立場に立った接し方についてみんなで考えることをねらいとする。 ・太郎役、保護者役を決め、ロールプレイを行う。(2名) 他の4名は、保護者の声かけの仕方と効果を観察する。 ・子ども役は、どう聞かれると話しやすいかの感想を述べ、つらい思いの子どもに、どう対応するのが効果的かを考える。(保護者の接し方) ・わが子を大切に思うと同時に、どうすればいいかとまどってしまう保護者の気持ちにふれる。 	役割分担表
	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ○各自での作業 ・解決方法を選択する。 ・後の展開を想像する。 ・後日、話を聞かされた、次郎の保護者の対応について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○グループ協議 ・各自の作業で記入したことを発表する。 ・意見交流 	<ul style="list-style-type: none"> ◎事例への対処法を考えることで、トラブルへの対処法について幅を広げることがねらいとする。 ・方法は複数選択可とし、その場合は、順番も考える。 ・両方の保護者の気持ちを想像しながら、対応を考えられるようにする。 ・どの解決方法にも、長所・短所があることに気付く。 ・人間関係の親密度により、効果が異なることに気付く。 ・加害者的立場となった時の対応法についても話し合う。 	
	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ○グループ協議 ・想定事例について、ワーク2をもとに、対応方法を考える。 ・日頃から、必要なことについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎他の場合の対応方法や日頃から必要なことについて考えることで、周囲の協力を得ながら対処する必要性について気付くことをねらいとする。 ・参加者の状況を配慮しながら、ファシリテーターが、取り扱う想定事例を選択しておく。 ・ワーク2の対処法を選択したり、組み合わせたりしながら、事例の特性に応じた対応方法を考える。 ・周囲の支援が効果的であることと、保護者・先生・地域との日常のつながりが重要であることを確認する。 	
まとめ 10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・各自の思いを記入する。 ・発表し合い、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を紹介し、みんな悩みをかかえていること、地域とのつながりがある人は不安が少ないことを伝える。 ・子育てにトラブルはつきもので、心配せず自信をもって、いざとなったら1人で悩まず、周囲に援助を求めることが大切であることを伝える。 	資料

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-5 気づいてますか？ 子どものサイン！

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：70分程度

ねらい	いじめや不登校といった問題の未然防止や早期発見のために保護者として気をつけたいことについて考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どものSOSやストレスサインに気づいた際の保護者としての対応の仕方を考えることができる。 ○ 子どものSOSやストレスサインに気づける保護者になるための日頃からのかかわり方の留意点を考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4～6人のグループに分かれておく。 (グループ編成は、参加対象を考えて編成し、仲のよい人ばかりで構成されないよう配慮する。) ○ 時計 ○ 筆記用具 ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ マジック ○ 資料 ○ ワークシート 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入	10分 ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク (自己紹介)	・自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。	筆記用具
展開	10分 ワーク1 ・エピソードを読む。 ・エピソードから考えたことをワークシートに記入し、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎エピソードをもとに、子どものサインに気づくポイントと対応について考えていくことをねらいとする。 ・グループごとに進行役を決めて、交流し合う。 	
	15分 ワーク2 ・参加者自身の経験をもとにワークシートに書き込み、グループ内で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どものSOSやストレスサインに気づいた時の保護者の対応について考えていくことをねらいとする。 ・子どものどんな行動や変化がサインなのかを考える。また、それらを解消するための保護者の対応についても考える。 ・書き込みが終わったら、進行役を中心に自由に話し合う。 	
	20分 ワーク3 ・進行役はテーマを読み上げる。 ・書き込んだ内容をもとに、グループ内で話し合う。 ・グループの意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どものサインを見逃さない親になるために、日頃からの子どもとのかかわり方のポイントについて考えることをねらいとする。 ・書き込みが終わったら、付せん紙に1項目ずつ記入して自由に話し合う。 (項目を分類し、グルーピングしてもよい。) ・グループごとに出てきた主な意見を分類し、発表する。 	付せん紙 模造紙 マジック
まとめ	10分 ふりかえり ・「わが家のオリジナルのチェックリスト」を作成する。 ・今日の学習で気づいたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どものサインを見抜くポイントを考えることで、日頃からの子どもとのかかわり方を考えることをねらいとする。 ・ストレスサインチェック表を紹介した後、自分で意識したい項目を考える。 ・項目の数はいくつでもよいことを伝える。 ・今日の感想を記入し、話し合う。 	資料①
	5分 ま と め ・資料を提示する。	・サインを見逃すといじめや不登校等へつながっていくケースもあるので、日頃からの家庭でのかかわり方や親同士が仲良く連携すること、情報交換をしていくことが大切なことを知らせる。また、困ったら学校(教職員)や相談機関等へ早めに相談し、一人で抱え込まないように対応することも伝える。	資料②

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-6

子どもの家庭学習について楽しく話し合おう！ ～探そう魔法の言葉・技～

対象：小学生の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	家庭学習に関する子どもへの接し方を振り返り、親として理想のかかわり方を話し合う中で、子どものやる気が出る接し方について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どものやる気」という視点で今までに行ってきた自分のかかわり方を振り返ることができる。 ○ 子どもの家庭学習に対するやる気が出るかかわり方のポイントについて考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4～6人程度のグループをつくっておく。 ○ 役割分担をする。(進行・記録・発表) ○ 付せん紙(黄・青・赤) ○マジック ○紙(模造紙) ○資料 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の緊張をほぐし、和やかな雰囲気をつくる。 ・自己紹介により、互いに親近感がもてるようにする。 ・自己紹介で「学習のことで子どもをほめたこと」を出し合い最近ほめた人から司会者、発表者と決める。 	名札(黄付せん紙) マジック
展開	5分	ワーク1 ・グループで話し合う。	資料① 青付せん紙 付せんを貼る紙 赤付せん紙 模造紙
	15分	ワーク2 (ふだんの声かけ) ・青付せん紙に自分の声かけやかかわり方を書く。 ・グループの中で青付せん紙を貼りながら発表をする。 ・赤付せん紙に理想の声かけやかかわり方を書く。 ・グループの中で赤付せん紙を貼りながら発表をする。	
	10分	ワーク3 ・他のグループの話し合いの紙を見て回る。	
	10分	ワーク4 ・ロールプレイングを行い「今のかかわり方(やる気をなくすものを選んで)」と「理想のかかわり方」の違いを体験する	
まとめ 10分	ふりかえり ・今日の話し合いで参考になったことや感想をグループで話し合う。 ・グループで話し合ったことを全体に発表する。 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・特によいかかわり方は全体で紹介する。 ・ファシリテーターは「理想のかかわりは子どもの立場で考えることが大切である」ことに気づくことができるようにまとめる。 ・ファシリテーターは参加者が「子育てについて親同士で話し合うことは楽しいことである」ことに気づくことができるようにまとめる。 	

Ⅲ-7

ママ友・パパ友づくりしてありますか？ ～親同士のコミュニケーションづくり～

対象：幼児～小学生の子どもをもつ保護者
時間：30～45分程度

ねらい	親同士のつながりを作っておくことが大切であることに気づき、つながりのきっかけづくりについて考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通の話題をもとに親としての対応を紹介し合い、親同士の和やかなコミュニケーションをとることができる。 ○ 親同士のつながりを作っておく大切さに気づくことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名札用カード (または付せん紙) ○ 筆記用具 (マジック) ○ ホワイトボード (黒板) ○ 時計 ○ ワークシート ○ グループ番号札 ○ 掲示資料 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 7～10分	<p>ワークの趣旨説明</p> <p>○アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名札カードを作る。 ・グループ分け・自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者の緊張をほぐし和やかな雰囲気を作る。 ・今日呼んでほしい名前と子どもの名前を名札用カードに書く。 ・アイスブレイク「肩たたきジャンケン」で3～5人程度のグループをつくる。 ・自己紹介をし、互いに親近感がもてるようにする。 ・3つの約束を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 名札用カード(付せん紙) マジック 3つの約束
展開 15～20分	<p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードを読む。 ・エピソードをもとに、自分がAさんの保護者ならどうするか、グループで話し合う。 ・Bさんの保護者と知り合いの場合、まったく知らない場合、どう行動するか、出し合う。 ・(時間があれば) そう行動したらどうなるか、後の展開を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎トラブルの相手と知り合いかそうでないかによって対応が違うことに気づくことをねらいとする。 ○エピソードをもとに自分がAさんの保護者ならどうするか、 (1) Bさんの保護者と知り合いの場合 (2) 全く知らない場合 という設定ごとに、グループで話し合う。 <予想される反応> ・子どもにもっと詳しく聞く。 ・家族で相談する。 ・相手の家へ電話する、行く。 ・周りの保護者に相談する。 ・日頃からの様子をもっと先生に聞く。 ・グループでできるだけ全員が司会者と発表者になるようにする。 ・その行動を取った場合その後どうなるか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ホワイトボード(または黒板)
	6～10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番仲の良いママ友・パパ友との出会いについて思い出す。 ・日頃から、親同士のつながりを作るために心がけておくことについて話し合う。 ・グループで出た意見を発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎親同士のつながりを作るため日頃から必要なことについて考えることをねらいとする。 ・ワークを振り返り、親同士のつながりの有無で対応や話しやすさに違いがあることをおさえ、一番仲の良いママ友・パパ友とどこでどうやって友達になったか問いかける。 ・日頃から心がけておくことについて、進行役を中心に話し合う。 ・普段から情報交換をして、つながりを持つことが必要であることを確認する。
まとめ 2～5分	<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ふりかえりをもとに、親も社会性を育てることや「そのやり方、教えて」と言える・言われる関係を作っていくことが大切であることに気づくことができるようにまとめる。 ・人間関係づくりのコツ「あせらずだんだんに」「ほどほどの距離で」「今度はあなたが声をかける番」等を伝える。 	資料

Ⅲ - 8

「いただきます」「ごちそうさま」
～食事への感謝、食事のマナー～

対象：幼児～学童期の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	食事への感謝の気持ちやマナーを身につけることの重要性について考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 食事への感謝の気持ちをもつことの大切さを認識する。 ○ 「いただきます」「ごちそうさま」をはじめとした食事のマナーや態度等について話し合い、実践へ向けての意欲を高めることができる。		
事前準備	○ 名札カード ○ ワークシート (ワーク1, 2, 3を別々に人数分用意) ○ 付せん紙 (人数分) ○ 模造紙 (グループ数分) ○ 資料 ○ 筆記用具		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク (自己紹介) ・グループ分け	・学習のねらいや約束事項を確認する。 ・仲よし同士ばかりが一緒にならないようにアイスブレイクを行い、4人グループをつくる。	筆記用具 名札
展開 12分	ワーク1 ・エピソードを読む。(全体) ・ワークシートに記入し、グループ内で発表する。 ・グループで話し合い、全体に発表する。	◎エピソードを読み、各家庭での食事のマナー等の状況について話し合うことで、日頃の食生活を振り返ることをねらいとする。 ・自分がエピソードの母親だったら何と答えるかを考え、ワークシートに記入し発表する。 ・よりよい答えを話し合い、全体に発表する。	エピソード ワーク1のシート
3分	資料説明 ・全体で資料を読んで「いただきます」「ごちそうさま」の意味について知る。	◎資料①を読み、食事のあいさつは、食事への感謝の気持ちを表現する大切な言葉であることを再認識することをねらいとする。 ・食事への感謝の気持ちは食事を大切にすることにつながり、食事のマナーや態度にも表れることを伝える。	資料①
10分	ワーク2 ・食事のあいさつ以外で気になることを付せん紙に記入する。 ・グループ内で発表し、話し合う。	◎食事中のマナーや態度等で気になることを話し合うことで、食事の際に大切にしたいことを共有することをねらいとする。 ・付せん紙に各自が記入し、紹介しながら模造紙に貼り、簡単に分類し、話し合う。	ワーク2のシート 模造紙 付せん紙
10分	ワーク3 ・食事に関わるルールを付せん紙に記入する ・ワーク2の意見と関連させて発表し、模造紙に貼る。 ・グループで話し合い、いくつかを全体で発表する。	◎食事に関わる家庭でのルールについて話し合うことで、楽しく食生活を送るためのヒントを共有することをねらいとする。 ・食事中や食事の前後にそれぞれの家庭で気をつけていることを出し合う。意見が出にくい場合は、自身の子どもの頃のことでも良いこととする。 ・ワーク2と関連させて分類しながら模造紙に貼り、いくつかを全体で発表し共有する。 ・ファシリテーターは、いろいろなルールを考えておき、状況に応じて参考例として紹介する。 ・食事のマナーや態度について、保護者自身がどのように教わったかを思い出させ、今度は自分が教え伝えていく立場であることに気づかせる。	ワーク3のシート 付せん紙
まとめ 10分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・グループで感想を発表する。 ま と め	◎学習についての感想を記入し、グループ内で発表し、実践への意欲を高める。 ・食事への感謝の気持ちを表すためにできそうなことを考え、これまでの食生活を見直すきっかけとする。 ・資料を提示し、子どもの食生活で大切にしていきたいことの参考とする。	ふりかえりのシート 資料 ②～④

Ⅲ-9 子どもの食事ってこれでいいの？

対象：幼児～小学生の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	子どもの食生活に関わる悩みや心配を保護者同士で共有し、家族の食生活をよりよくするための工夫を考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者間で子どもの食生活にかかわる悩みや心配を共感することができる。 ○ 保護者自身が子どもの頃、苦手だった食べ物やそれにまつわるつらいエピソードを思い出すことで、子どもの気持ちを考えたり、子どもへの接し方を見直したりすることができる。 ○ 子どもが何でもおいしく食べるために、家庭でしている工夫やできそうな工夫を紹介し合い、実践へ向けての意欲を高めることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">○ 名札カード <li style="width: 50%;">○ ワークシート (ワーク1, 2, 3を別々に人数分用意する。) <li style="width: 50%;">○ 付せん紙 (人数分) <li style="width: 50%;">○ 模造紙 (グループ数分) <li style="width: 50%;">○ 資料 <li style="width: 50%;">○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク (自己紹介) ・グループ分け ・自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや約束事項を確認する。 ・仲よし同士ばかりが一緒にならないようにアイスブレイクを行い、4人グループをつくる。 ・自己紹介の際に子どもの頃好きだった食べ物を紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆記用具 名札
展開 15分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードを読む。 ・子どもの食事について気になることを付せん紙に記入する。 ・グループ内で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎エピソードを読み、各家庭で子どもの食生活に関する悩みや不安を話し合い、共有することをねらいとする。 ・付せん紙に各自が記入し、紹介しながら模造紙に貼り、簡単に分類しながら話し合う。 ・グループの意見を全体に発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> エピソード ワーク1のシート 付せん紙 模造紙
10分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃の苦手な食べ物について思い出す。 ・グループ内で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎親が子どもの頃に苦手だった食べ物を思い出すことで、好き嫌いの克服は難しく、親が心にゆとりをもって対応する必要があることに気づくことをねらいとする。 ・子どもの頃の苦手な食べ物についての思い出をワークシートに記入し、わが子の気持ちを考える。 ・子どもの食事が苦痛にならないように、工夫する必要があることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワーク2のシート
15分	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践している工夫を付せん紙に記入する。 ・グループ内で話し合い、主なものを全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが苦手なものを克服し、何でもおいしく食べるようになるために、家庭で実践している工夫を共有することで、今後の自身の取組に向けた一助となることをねらいとする。 ・付せん紙に各自が記入した後、紹介しながら模造紙に貼り、簡単に分類し、全体に発表する。 ・調理法以外の工夫にも目が向くようにする。 ・意見が出にくい場合は、自分の実践以外(親や友人などの実践)でも良いこととする。 ・調理法や味付けの他に、楽しい雰囲気づくりや食材への興味関心を高めることも効果的な工夫であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワーク3のシート 付せん紙
まとめ 2～5分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・資料の説明を聞く。 ・感想を記入する。 ・グループ内で感想を発表する。 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習についての感想を記入し、グループ内で発表し、実践への意欲を高める。 ・資料の説明を聞き、よりよい食生活を考えるヒントとする。(資料は全て紹介する必要はない) ・食について関心をもち、家族で楽しく食卓を囲むことの大切さに触れて、これからの食生活を見直す意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料 ふりかえりのシート

Ⅲ-10

考えよう！子どもの安全・安心

対象：主に学童期の子どもをもつ保護者
時間：45～60分程度

ねらい	子どもの周りに潜む危険に目を向け、子どもと一緒に危険について考えることができるように、保護者・地域の人の安全意識を高める。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭でどのようなことに気をつけ、声掛けをしているかを振り返ることができる。 ○ 人(不審者)だけでなく、場所(危険箇所)にも注目し、危険性を考え各家庭や地域の実態に合わせて具体的な危険予防の方法を考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4～6人のグループに分かれておく。(グループ編成は、参加対象を考えて編成し、仲のよい人ばかりで構成されないよう配慮する。) ○ 時計 ○ 筆記用具 ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ マジック ○ 資料 ○ ワークシート(参加者配付用・ファシリテーター用) ○ ヒントカード 		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク (自己紹介)	・自由に意見が出やすい雰囲気づくりを行う。 (自己紹介も含めて)	筆記用具 名札
展開 10～15分 15～20分	ワーク1	<ul style="list-style-type: none"> ◎不審者を見た目だけで判断するのは難しいことを確認し、人(不審者)だけではなく、場所にも注意することが大切であることに気づくことをねらいとする。 ・なぜそう思ったのかを確認する。 ・まず、参加者に家庭でどのようなことに気をつけるよう子どもに話しているかたずね、2～3人に発表してもらう。 ・「入りやすく、周りから見えにくい」場所で犯罪が起こりやすいことを確認する。 ・犯罪が起きにくい場所、起きやすい場所に関する資料を配付し補足する。 ・身近なところでこのような場所があるか考える。 	資料1
	ワーク2	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが犯罪にあわないように、家庭や地域で普段からできることについて考えることをねらいとする。 ・家庭でできること、地域でできることを色分けした付せん紙1枚につき1項目を書き込む。 (項目を分類し、グルーピングしてもよい。) ・グループごとに、出てきた主な意見を分類し発表する。 ・各グループから意見が出にくかった場合は、ヒントカードを全体に向けて提示し、考えてもらい補足する。 	付せん紙 (2色) 模造紙 マジック ヒントカード
まとめ (ふりかえりと まとめを含めて 10～15分)	ふりかえり	◎学習について振り返り、自分で取り組んでみようと思うことを考える。	
	ま と め	・子どもが犯罪にあわないために家庭でルールを決めたり、正しい防犯知識を身につけさせたりすることや、地域で子どもを見守ることの活動例を挙げ、日頃からのあいさつや近所づきあい(地域の行事への参加等)の重要性について資料を使って補足する。	資料2

Ⅲ-11

大人と子どもとケータイ・スマホ

対象：学童期の子どもをもつ保護者（乳幼児期・思春期も可）
時間：70分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大人のケータイ・スマホの使い方について考えることで、ケータイ・スマホがある社会での子育ての難しさについて理解を深める。 ○ 言葉や表情を用いて人と直接関わり合うことの大切さとその基盤が家庭にあることを再認識する。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活の中で気になる大人のケータイ・スマホの使い方を話し合うことで、自分自身の使い方を考える。 ○ 家族の団らんや会話、コミュニケーションは、子どもの健やかな成長に欠かせないことを再認識し、自分の生活を振り返る。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時計 ○ 名札 ○ 筆記用具（サインペン・カラーペン） ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ ワークシート ○ 資料 ○ 色丸シール 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5～10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク(自己紹介)	<ul style="list-style-type: none"> ・和やかな雰囲気づくりをする。 ・4～5人のグループになる。 	名札
展開	10分 ワーク1 ・ケータイ・スマホの良いところや便利な点を出し合う。	◎ケータイ・スマホのプラス面を出し合うことにより、参加者が難しい話題であるという先入観をもたないようにする。	ワークシート
	10分 ワーク2 ・エピソードを読む。(全体) ・感想を伝え合う。	◎親子の様子から、親としてスマホと子どもにどのように関わればよいか考えることのきっかけとする。 ・女の子の気持ちを考えることで、親としてどうすればよいのかを考える。	ワークシート
	15分 ワーク3 ・大人のケータイやスマホの使い方について話し合う。 ・付せん紙に記入する。 ・グループで話し合う。	◎身近な生活の中で気になる大人のケータイ・スマホの使い方について話し合うことで、自分自身の使い方について振り返ることをねらいとする。 ・気になることをあるだけ書き出す。意見が出にくい場合は、「街で」「電車で」「レストランで」「学校で」「家庭で」「職場で」等、具体的な場面を挙げて補足する。 ・出た意見を全体の場で発表する。進行役は、「知らず知らずのうちに」「気になってはいるが」「忙しくてつい」などの言葉で受け止めながら聞き、強く否定したり、指導したりしないようにするが、周りや相手の気持ちを考えて行動することが大切であることを伝える。 ◎出た意見の中から、エピソードのように子育てに関するものについて取り上げ、ケータイ・スマホの普及により、当たり前のように感じる行動の中に、親子関係を希薄にしていることがあることに気づくことができるようにする。	付せん紙 模造紙 サインペン等
	15分 ワーク4 ・子育てについて振り返り、子どもと向き合って子育てをする方法を考える。 ・付せん紙に記入する。 ・グループで話し合う。	◎子どもと向き合って子育てをしていくために、どうすればよいかを考えることをねらいとする。 ・家族の団らんや会話、コミュニケーションをもつためにできそうなことを考える。 ・ケータイ・スマホを使わないという意見だけでなく、うまく利用した方法があることにも触れる。 ・意見を分類しながら模造紙に貼り、いくつかを全体で発表し共有する。 ※または、各グループの模造紙を見て回り、「いいねシール」を貼る。	付せん紙 模造紙 サインペン等 色丸シール ※いいねシール
3分	資料紹介	◎ケータイ・スマホを使うことが当たり前になった社会の中で、子どものコミュニケーション能力や心豊かな人間性を育てるために、親子の絆や親子のコミュニケーションが大切であることを、もう一度確認することをねらいとする。 ・資料①を配布し、読む。	資料①
まとめ 5分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・感想を共有する。	◎学習についての感想を記入し、グループ内で発表し、実践への意欲を高める。 ・本日の学習を受けて、家庭や子どもとの関わりの中で実践してみたいことを書く。 ・子どもたちを取り巻く環境が変わっても、子どもの教育の基盤は家庭であり、親はしっかり子どもと向き合って子育てをしていくことは変わらないことだと伝える。 ・ケータイ・スマホのトラブルや危険性については、親としても常に学習して、最新の情報を得る必要があることを知らせる。 ・参考資料として資料②を配布する。時間があれば、説明をする。	ワークシート 資料②

Ⅲ-12 子どもはどこで育つの？

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：55分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な人・価値観にふれて育っていくことよさを感じ、開かれた教育環境で子どもを育てていきたいという思いをもつ。 ○ 自分の周り（地域）にたくさんの教育環境があることに気づく。 		
実施のポイント（評価など）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに意見を出し合いながらマップを作ることで、自分の周り（地域）の教育環境について考えることができる。 ○ 「子どもの学びにつながる度」「私がハードルを感じる度」の2つの見方ができるとともに、それぞれの考えたランキングをもとに話し合う中で、多様な価値観にふれることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ4人程度のグループに分かれておく。 ○ 模造紙 ○ 付せん紙 ○ 筆記用具（黒マジック、鉛筆） ○ A4用紙 ○ 参考資料（2種類） ○ ふりかえり記入用紙 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 8分	<p>ワークの趣旨説明</p> <p>○アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プチエピソードを聞く。 ・ 自分のプチエピソードを発表する。（自己紹介を含める） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の子ども時代を思い出すことで、開かれた教育環境で育てることのよさを振り返ることをねらいとする。 ・ 提示のプチエピソードでは、参加者がイメージをもちやすいように家庭・学校以外の様々な場でのよかった体験をあげるようにする。 ・ 発表しやすいように、名前やエピソードのキーワードを書く時間をとる。 ・ 自己紹介の中に、自分のプチエピソードを入れることで、時間の短縮をはかる。 ・ 資料を提示し、データをもとに開かれた教育環境で育ててをすることのよさを改めて感じることができるようになる。 	A4用紙 マジック 資料
展開 20分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の周り（地域）の教育環境を付せん紙に書く。 ・ グループ内で発表し、話し合う。 ・ 「場」を分類し、名前をつける。 ・ 全体で共有する。 <p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表を作る。 ・ 個人で点数をつける。 ・ グループ内で発表し、話し合う。 ・ 全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いに意見を出し合いながらマップを作ることで、自分の周り（地域）にたくさんの教育環境があることに気づくことをねらいとする。 ・ より多くの場を挙げるようにするため、実際に参加したことがない場でも書いていくようにする。 ・ 互いに質問し合うことで、より詳しく情報を得ることができるようになる。 ・ 発表し合う時には、似たような意見は近くに貼るようにし、分類を行うように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ◎2つの視点で「場」を見るとともに、それぞれが考えたランキングをもとに話し合う中で、多様な価値観にふれることができるようにすることをねらいとする。 ・ 「子どもの学びにつながる度」「私がハードルを感じる度」の2つの視点に沿って、まずは個人作業で表に5段階評価をつけるようにする。 ・ グループ全体でも表にまとめることで、意見を比べやすくする。 ・ 評価が分かれている「場」について特に話し合うよう助言する。 	付せん紙 マジック 模造紙 表 (個人用とグループ用)
まとめ 7分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえりシートを記入する。 ・ 発表し合い共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「開かれた」という点についての説明を行う。 ・ ふりかえりシートに各自の思いや得た情報などを記入する。 	ふりかえりシート

Ⅳ 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ-1 思春期の心 ～青春時代へタイムスリップ～

対象：小学校高学年～高校生の子をもつ保護者
時間：90分程度

ねらい	自分の思春期や子育てをふりかえり、保護者同士で思春期の子どもについて話し合うことにより、子どもとのよりよい関係づくりについて考える。			
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思春期の子どもに対する理解を深めることができる。 ○ グループ協議を通して、自分の子育てを客観的にふりかえることができる。 			
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシート（できればワークごとに1枚ずつ配付できるようにしておくとうい。） ○ 参考資料（まとめの部分で配付する。） ○ 名札 ○ 筆記用具 			
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物	
導入	10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介 ・グループづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムのリード文をもとに、趣旨を確認する。 ・ 参加者の緊張をほぐし、自由に意見が出しやすい雰囲気づくりを行う。(自己紹介も含む) ・ 5～6人のグループをつくる。 	名札 リード文
展開	15分	ワーク1 ・各項目に記入後、自分の思春期の頃と同じだと思うことや親との関わりについて記入する。 ・グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分は、どのように親と関わっていたか、どのように親のことを思っていたかをふりかえることをねらいとする。 	(ワーク1のシート)
	25分	ワーク2 ・わが子の変化について、記入する。 ・子どもの変化について、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎思春期の子どもの変化についてグループで話し合うことで、子どもに対する理解を深めることをねらいとする。 ・ 四つの項目について、具体的に記入する。 ・ マイナス面ばかりでなく、プラス面も書くことを説明する。 ・ この場で話し合ったことは、他言しないことを約束する。 	(ワーク2のシート)
	30分	ワーク3 ・ワーク2をもとに、変化した子どもにどのように接すればよいかを記入し、グループで話し合う。 ・グループで話し合ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎思春期の子どもとのよりよい関係づくりについて考えることをねらいとする。 ・ ワーク2で話し合ったことをもとに、記入する。 ・ 考えが違っても、受容的・共感的な姿勢をもち、互いの意見を尊重するように約束する。 ・ ワーク2の子どもの変化も踏まえて、話し合ったことを発表し、接し方について全体で共有する。 	(ワーク3のシート)
まとめ	10分	ふりかえり ・ワークシートへ記入する。 ・発表し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料や家庭教育手帳のことを説明する。 ・ 全体で出された考えをまとめ、話し合ったことを、自分の子育てにぜひ生かしてほしいことを伝える。 	参考資料 家庭教育手帳

Ⅳ 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ-2 子どもの どう考える？



対象：小学校高学年・中学生の子どもをもつ保護者
時間：65～80分程度

ねらい	子どもの「ケータイ」社会で何が起きているのかを知る。 「ケータイ」を子どもに持たせるときは、親が何をすべきかを考える。		
実施のポイント (評価など)	○「携帯電話」と「ケータイ」の言葉のイメージを話し合うことで、便利な点とリスクについて考えることができる。また、資料を通じて子どもの「ケータイ」事情を知り、その対応策を話し合うことができる。 ○子どもが「ケータイ」を所持する場合に親としてすべきことを考えることができる。		
事前準備	○資料(資料1：新聞記事 資料2：フィルタリングサービス) ○筆記用具 ○ファシリテーター用資料を準備する。(資料3：相談機関一覧) ○数人のグループで話し合えるよう、グループづくり、会場設定をしておく。		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・参加者の緊張をほぐし、和やかな雰囲気をつくる。 ・自己紹介により、互いに親近感がもてるようにする。	
展開 10分	ワーク1 ・グループで話し合う。	◎「携帯電話」と「ケータイ」の言葉のイメージを話し合うことで、便利な点とリスクについて考えることをねらいとする。 ・様々な視点から考え、意見を出し合うようにする。 (例) 電話などの連絡手段、安心安全等 ゲームなどの遊び道具、インターネット利用等	
15～20分	ワーク2 ・グループで話し合う。 ・新聞記事を読む。 (進行者が読むかまたは黙読) ・記事から利用実態をピックアップする。 ・危険な現状を知る。	◎子どもの「ケータイ」利用をめぐる危険な現状・実態について知り、対応の必要性に気付くことをねらいとする。 ・実際に起こっている犯罪・被害はどのようなものか話し合う。さらに、新聞記事をもとに話し合う。 (例) * 出会い系サイト以外のサイトで子どもが犯罪に巻き込まれるケースが増加 * ゲームサイトやブログ、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービスでの危険性 * 携帯依存、ネットいじめ、高額請求、書き込みで加害者に、迷惑メール等 * ケータイによって世界が広がれば、リスクも増加	資料1
15～20分	ワーク3 ・ケータイの必要性について話し合う。 ・ケータイを持たせる場合のルールを考え、話し合う。 ・資料からルールに沿った機能設定等を知る。	◎トラブルや依存を防ぐために、親としてすべきことを考えることをねらいとする。 ・家庭でできること、しなければならないことについて話し合う。 (例) * 「ケータイ」の必要性を子どもと話し合いながら考える。 (家庭環境、子どもの発達段階等) * 持たせるなら、家庭でのルールを子どもと話し合いながらつくる。 (「ケータイ」の使用時間・場所、料金の上限、書き込み、インターネットやメールの利用、学校のルール・公共の場でのマナーやルール等を考える。) * 発達段階に応じたフィルタリング・アクセス制限を行う。 →ルールに沿って「ケータイ」機能設定を行う。 技術的な知識、手段(フィルタリング・アクセス制限等)等を資料から知る。 ※2009年4月1日から施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」で、18歳未満の子どもに携帯電話を使用させる場合、フィルタリングサービスの利用が義務付けられている。	資料2
15～20分	ワーク4 ・我が家のルールづくりをする。	◎家庭で実際にできることを話し合うことをねらいとする。 ・話し合ったことをもとに、我が家での場合を考えて三つ程度ルールづくりを行う。 ・グループで出したルールを発表し、参加者で共有する。	
まとめ 10分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。	・親子で話し合う、一緒にルールづくりをする等で大切な家庭教育における基本的な事項についてみんなで確認する。 * 子どもとの日々のコミュニケーションが大切であること * 挨拶をする、声をかける、気にかける、見守る等 * 子どもにコミュニケーション能力、マナーを身に付けさせることの重要性を認識すること * 被害者や加害者をつくらないための家庭教育の必要性 ・時間に余裕があればトラブルに巻き込まれた場合の対応・相談窓口を紹介する。	資料3

Ⅳ 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ-3 異性との付き合い、男女の付き合い

対象：思春期の子どもをもつ保護者20～25人程度
時間：60分程度

ねらい	思春期は発達段階で異性や性への関心が高まる時期である。子どもの性や男女の付き合い方について、家庭でどうかかわるのかについて考える。		
実施のポイント (評価など)	直面する性の問題に対し、適切な意志決定や行動選択ができる子どもを育てるために何が大切なのか、何をすべきかを考えることができる。		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施部屋の環境づくり ○ あらかじめ4～5人のグループに分かれておく ○ 資料 ○ 名札 ○ 筆記用具 		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入	5分 ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・自由に意見が出しやすい雰囲気づくりを行う。(自己紹介も含めて)	名札
展開	15分 ワーク1 ・エピソードを読む。 ・グループで話し合う。 ・ワークシートに記入する。	◎思春期は発達段階で異性や性への関心が高まる時期であることを共有することをねらいとする。 ・エピソードだけでなく、自分の経験や日頃感じていることなどについても自由に意見を出せるようにする。 ・出された意見は尊重し、批判しないこと、他言しないことを確認する。	
	30分 ワーク2 ・個人でアドバイスを記入して発表する。 ・グループからのアドバイスを話し合い発表する。	◎アドバイスを考えることで、子どもの性や男女の付き合い方について、家庭での関わり的重要性に気付くことをねらいとする。 ・子どもの異性との付き合い方について、現在取り組んでいることやルールがある場合は紹介する。	
	参考資料 ・資料の説明を聞く。	・参考資料を説明し、現在の中高生の性交に関する見解について知らせ、親としての関わりが必要であることを伝える。	参考資料
まとめ	10分 ふりかえり ・わが子へ伝えたいこと、そのために心がけたいことを記入する。 ・発表し合い、共有する。	・本日のワークが各家庭で子どもと異性との付き合い方について語り合うきっかけになることを伝える。 ・資料について説明し、青少年の性の現状について伝える。	資料1～3

Ⅳ 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ-4 揺れ動く「新思春期」

対象：思春期の子どもをもつ保護者
時間：70分程度

ねらい	精神的にも肉体的にも変化しはじめる時期（新思春期）の子どもとの接し方を考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思春期の子どもの変化を理解することができる。 ○ 子どもとのかかわり方を考え、安定した想いで子育てができるようにする。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1グループ4～6人程度 ○ 資料 資料①：(手持ち) こんなことでお悩みではありませんか？ 資料②：親子のコミュニケーションがよくなる魔法をかけませんか？ ○ 模造紙 ○ 付せん紙 ○ ワークシート ○ 感想記入用紙 ○ 時計 ○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク (自己紹介)	・自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。 やわらかい雰囲気になるよう心がける。	3つの約束
展開	5分 ワーク1 ・エピソードを読む。 ・グループで話し合う。	◎思春期の子どもをもつ親の不安な気持ちに共感できることをねらいとする。	・ワークシート
	15分 ワーク2 ・実際の困り感や子どもの成長を出し合う。	◎思春期の子どもの変化についてグループで話し合うことで、子どもに対する理解を深めることをねらいとする。 ・子どもの変化に伴う不安等をあげるとともに、成長した面も付せん紙の色を変えて貼る。 ・進行役は必要に応じて、資料①「こんなことでお困りではありませんか？」を読む。 ・困り感の部分を見方を変えればといった、リフレーミングしたとらえ方で成長面を出すことも考えられる。	・資料① (手持ち) ・付せん紙 ・模造紙
	20分 ワーク3 ・不安解消のポイントと成長をさらに伸ばすポイントを話し合う。 ・資料②を読む。	◎思春期の子どもとのよりよい関係づくりについて考えることをねらいとする。 ・不安・成長どちらへも対応のポイントが出せるようにする。ポイントを付せん紙に書いて貼る。 ・最後に資料を読み、話し合いの内容について深める。	付せん紙 資料② 「親子のコミュニケーションがよくなる魔法をかけませんか？」
まとめ 15分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・話し合う。	◎振り返りをし、安定した想いで子育てができるようにする。 ・感想や取り入れてみようと思うことを記入し、話し合う。	ワークシート
5分	まとめ ・発表する。	・何人かに発表してもらい、全体で共有する。	感想記入用紙

N-5

夢見る力を育む応援 ～大人の役割を考えよう～

対象：小学校・中学校の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

ねらい	子どもの夢の実現に向け、保護者として、どのような支援が必要かについて考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 子どもの願いや姿を受け止めながら、将来に向けて必要な力をつけていくために子どもとの関わり方を考えることができる。		
事前準備	○ あらかじめ4人グループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ 付せん紙2色 ○ A3用紙 ○ ワークシート①～② ○ ふりかえりシート ○ 資料①～⑥		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の緊張をほぐし、和やかな雰囲気をつくる。 自己紹介で「自分の子どもの頃の夢」について話し合う。 自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。 	
展開 10分	ワーク1 ・子どもの将来の夢についてグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの夢に対するそれぞれの親の気持ちに共感できるようにする。 ・子どもの夢やあこがれの職業を紹介し合い、それについての保護者の思いを交流する。子どもには夢がない、子どもの夢が把握できていないという場合もそのことについての思いを出してもらう。 	ワークシート①
20分	ワーク2 ・子どもの良さや日々の頑張り等を出し合い、その特性に合った将来の姿を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの良さや日々の頑張り等を出し合い、その特性に合った職業を考えることで子どもの思いを尊重した進路について考えることをねらいとする。 ・夢に向けての努力のみに限定せず、日頃の些細な頑張りや興味関心についても目を向けるようにする。 ・思いっただけ書いた付せん紙すべてA3用紙に貼り出し、グループで交流する。 ・子どもの頑張る姿から期待できる将来の姿を思いっただけ付せん紙に記入し、グループ全体で交流する。 ・交流した意見は、実際の子どもの思いとは異なる、その場で感じた大人の意見であり、あくまで多様な可能性として挙げられたものであることをおさえておく。 ・資料を提示し、子どもの夢実現に向けた大人の支援について知る。 	ワークシート① 付せん紙 2色 A3用紙 資料①
15分	ワーク3 ・ワーク2をもとに夢の実現に向けて意欲をもって取り組んでいる子どもへの関わり方について、グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎夢実現や自己実現に向けて、子どもを支える保護者として何ができるかを考えることをねらいとする。 ・関わりとしては、直接的な支援（知識・技能の習得）と間接的な支援（内発的な動機づけ）の両方の視点で考えることができるようにする。 ・グループで話し合った後、全体で共有する。 	ワークシート②
まとめ 10分	ふりかえり ・参加者に応じた適切な資料を資料②～⑥より選んで提示する。 ・今日の感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を提示し、子どもの将来に向け、関わり方で意識していきたいことの参考とする。 ・主役は子どもであり、保護者は子どもを支える応援団であるということを踏まえ、子どもの発達段階に応じた支援を行うことの大切さを確認する。 	資料②～⑥より選択 ふりかえりシート

V 祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年代の方を対象にしたプログラム

V-1 子育ての不易流行を考える

対象：地域の大人
時間：60分程度

ねらい	現代的課題をふまえながら、子育ての不易流行を考え、親世代の子育てを応援する必要性について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てや親のあり方に関して、変わらない点や変わった点について考え、共有することができる。(親の批判にならないように注意する。) ○ 親の努力だけでは解決できない、社会的状況を理解することができる。 		
事前準備	○ 資料 ○ 付せん紙 ○ カラーマジック ○ 模造紙 ○ 記入用紙 ○ 筆記用具		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・ バースデーチェーンをして、4～5人のグループ分けをする。	
展開	5分 ワーク1 ・ エピソードを読む。 ・ グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎エピソードをもとに、日頃感じていることを出し合うことをねらいとする。 ・ ブレーンストーミングで自由に感じたことを出してもらう。 ・ ファシリテーターは、感想が出ていないグループがないかチェックして、必要ならヒントを出す。 	付せん紙 カラーマジック
	10分 ワーク2 ・ 変わらないと感じることを付せん紙に記入する。 ・ グループで話し合い、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子育てや親について、変わらないことについて考え、共有することをねらいとする。 ・ 思いついたものを付せん紙に各自が記入して模造紙に張り、グルーピングをする。 ・ グループで出た意見を、1分程度で発表し、共有する。 	模造紙 タイマー
	10分 ワーク3① ・ 変わったと感じることを付せん紙に記入する。 ・ グループで話し合い、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子育て環境や親の対応について、変わったことについて考え、共有することをねらいとする。 ・ 思いついたものを付せん紙に各自が記入して模造紙に張り、グルーピングをする。 ・ グループで出た意見を、1分程度で発表し、共有する。 	
	15分 ワーク3② ・ 資料を参考に背景について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◎親の努力だけでは解決できない、社会的状況を理解し、親世代の子育てを応援する必要性に気付くことをねらいとする。 ・ 環境の変化について理解できるように、じっくりと資料を使って考えることができるように説明をする。 	資料
まとめ 10分	ふりかえり ・ できることを記入する。 ・ 発表し合い、共有する。	・ 個々の気付きのキーワードを紙に書いてもらい、グループで紹介して共有する。	記入用紙 カラーマジック

V 祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年代の方を対象にしたプログラム

V-2 子どもたちにしてあげたいこと

対象：地域の大人
時間：60～90分程度

ねらい	子どもの豊かな成長のために、地域の大人ができることを話し合い、子育て支援に取り組むきっかけとする。		
実施のポイント (評価など)	地域住民のほとんどは、子どもの様子が気になりながらも、実際に子育て支援に取り組む人は少数であることから、できることから始めてみようという地域の大人の意欲の高まりを引き出すことができる。		
事前準備	<input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 資料 <input type="checkbox"/> 付せん紙 <input type="checkbox"/> マジック <input type="checkbox"/> 模造紙あるいは四つ切画用紙		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・アイスブレイクの最後に3～4人のグループができるような活動を行う。	
展開 10分	ワーク1 ・子どもころの遊びを想起する。 ・グループで紹介する。	◎子どもころの遊びを想起することをねらいとする。 ・グループ内で自分が1番好きだった遊びを発表する。	
15分	ワーク2 ・エピソードを読む。 ・解決方法を考える。 ・グループで話し合う。	◎子どもたちの遊びの現状について気付き、大人にできることについて考えることをねらいとする。 ・グループ内で自分の考えを発表し、解決の方法を話し合う。	
20分	ワーク3 ・子育て支援の方法について考え、付せん紙にアイデアを記入する。 ・グループで話し合い、まとめた意見を発表する。	◎地域の大人ができることを話し合うことで、子育て支援に取り組む意識を高めることをねらいとする。 ・ワーク2の解決法などを参考にしながら資料について説明を行い、グループでの話し合いに活用できるようにする。 ・グループの話し合いには、ブレインストーミングで個人の考えを出し合う。 ・模造紙に貼りながら、自分の地域でどんな取り組みができるか意見を出し合い、グループとしての取組をまとめ発表する。 ※グループでの話し合いは、ランキングで時間を短縮することも可能。	資料 付せん紙 模造紙
まとめ 5分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。	・学習についての感想を記入し、グループ内で発表する。 ・時間があれば様々な地域で行われている子育て支援の取組を紹介する。	実践事例

V 祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年代の方を対象にしたプログラム

V-3 親への接し方・子育てアドバイス

対象：地域の大人
時間：60分程度

ねらい	子育て中の親へのかかわり方や相手が受け入れやすい支援のあり方について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内で十分他の方の考えを聞くことができる。 ○ 支援をしていく上で、子育て中の親の話をしっかり話を聞いて気持ちを受け止めること、親のがんばりを認めることも大切であることに気付くことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名札 ○ 筆記用具 ○ 資料 ○ あらかじめ4名程度のグループに分かれておく。 (参加者の年齢や性別ができるだけ偏らないようにする。) 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・自由に飾らずに意見を出し合うためのウォーミングアップをする。	名札
展開 15分	ワーク1 ・各自の思いを記入する。 ・グループ内で紹介し合う。	◎自分の思いを考えることやグループ内でそれぞれの考えを聞くことを通して、自分の受け止め方や考え方を振り返ることをねらいとする。(ワーク2でも同様) ・自分に自信がもてない親の気持ちを聞いたときの受け答えを考える。	
20分	ワーク2 ・各自の思いを記入する。 ・グループ内で紹介し合う。	◎子育て中の親の気持ちを受け止めること、親のがんばりを認めることが大切であることに気付くことをねらいとする。 ・子どものことを思って自分がんばっているのに、うまくいかないと思っている親の対応についてどう思うか、また自分ならどのように答えるかを考える。	
5分	資料紹介 ・子育て意識に関する資料の説明を聞く。 ・気付いたことを発表し合う。	◎多くの親は子育てに不安をもっており、支援していく必要があることに気付くことをねらいとする。	資料
まとめ 10分	ふりかえり ・各自の思いを記入する。 ・各自の思いを紹介し、共有する。	・時間があれば、全体場で多くの人の感想を共有できるようにする。 ・参加者が学習に取り組んだこと自体が大変すばらしいことであることを伝える。 ・時間があれば、子育てをする親をみんなで守り、サポートしていくことが必要なことを伝える参考資料等を紹介する。	

※ 時間が取れない場合はワーク1、ワーク2どちらかだけを行う。